

2020年度 委員会事業報告書

担当副理事長 平野伸弥
渉外交渉委員会 委員長 平野匡彦

1. 委員会開催日（12回）:

1/21	2/18	3/24	4/7	5/12	6/3
7/26	8/19	9/29	10/13	11/11	12/14

2. 事業報告

- | | |
|------------------------------|--------------|
| (1) 例会の担当 | 5月21日 |
| (2) 愛知ブロック 名古屋会議（2月例会）の担当 | 2月11日 |
| (3) クリスマス家族会・卒業生を送る会（12月）の担当 | 12月9日、12月19日 |
| (4) 日本JC 京都会議の担当 | 1月17日～19日 |
| (5) 西尾張6JCじゃがいもゴルフコンペの担当【稲沢】 | 5月（中止） |
| (6) JCI ASPACの担当【カンボジア】 | 8月（中止） |
| (7) 東海地区 とうかい号の担当 | 6月（中止） |
| (8) 東海地区 東海フォーラムの担当【岐阜】 | 7月（中止） |
| (9) 日本JC サマーコンファレンスの担当【横浜】 | 7月（中止） |
| (10) 愛知ブロック 愛知ブロック大会の担当【尾張旭】 | 9月5日 |
| (11) 日本JC 全国大会の担当【札幌】 | 9月26日 |
| (12) JCI 世界会議の担当【横浜】 | 11月3日～7日 |
| (13) 行政・マスメディア・JC交流会 | 2月7日 |
| (14) JCニュースの編集と発行 | 1月・9月・12月 |
| (15) 総会・例会・各種事業の記録保管の担当 | 通年 |
| (16) LOMホームページ運営の担当 | 通年 |
| (17) 新入会員の拡大 | 通年 |
| (18) 新入会員の育成 | 通年 |

3. 委員会メンバー

平野匡彦 柳田進也 佐治 隆

4. 反省点及び申し送り事項

当委員会では、一年間を通して様々な経験を共有し柔軟な思考と強固な絆で結ばれた組織を作ることを目的として活動してまいりました。

名古屋会議（2月例会）では、海部津島青年会議所から出向している仲間の勇姿を称え、フォーラムや式典に参加し、メンバー一人ひとりが体感した新たな発見を共有し、愛知ブロック協議会の発信する運動の方向性を学び視野を広げることを目的に例会を開催しました。メンバー一人ひとりが体感したことを共有するために意見交換をすることで視野を広げることができました。

次に、5月例会では、笑顔が溢れる経験を共有し、互いに尽くし合い目標に突き進むことで、連帯感を高めるべく、相互理解を深める術を学ぶ例会を開催しました。しかし、その手法である傾聴をメンバーが実践できるまでには至らず、事業目的を達成することができませんでした。そのため、後日オンライン懇親会を

開催することでL O Mの連帯感を高めることができました。当初は、運動会のようなものを考えておりましたが、なかなか手法が定まらず当月での審議となってしまいました。コロナウイルスの拡大によりできることが減少して行く中、基本方針の「互いに尽くし合い目標に突き進むことで」という文面から直接会う必要があると固執しオンラインでの例会開催に踏み切ることができませんでした。次年度以降もコロナウイルスの影響については常に考えていく必要があります。例会の開催方法をオンラインに変更するかしないかを判断するための基準を用意しておくことが必要であると申し送りさせていただきます。

そして、普段我々の活動を支えていただいている家族や身近な方々に楽しいひと時を過ごしていただき、日頃の感謝を伝え、永年L O Mのために活躍をされた卒業生の想いを受け継ぐために、クリスマス家族会・卒業生を送る会（12月例会）を開催させていただきました。12月例会は、5月例会の反省を活かし例会を2部制とした上で家族会をオンラインでの開催としました。第1部の卒業生を送る会では、卒業生の最後の門出を華々しく飾るとともに、卒業生の熱い想いをメンバーにしっかりと伝えることができ卒業生の想いを受け継ぐことができました。第2部のクリスマス家族会では、企画を通してご家族に楽しいひと時を過ごしてほしいという想いは伝わったことで感謝の気持ちを伝えることができたのではないかと考えます。

対外事業においては、情報発信に工夫がなく参加したくなるような情報を案内することができませんでした。名古屋会議のメインフォーラムについては、講演のテーマやあらすじ、講師のプロフィール紹介をしましたが、講師の著作の紹介や著作を通しての講師の考えや講演ではこのような話になるのではないかと委員会としての意見を載せることができれば、より興味を引く情報になったと考えます。また、愛知ブロック大会や全国大会などのwebで開催された大会については案内の送付を失念しておりました。委員会として何も働きかけができておらず、渉外交遊委員会という名称にもある、委員会のメインの担いであるしなやかで強い組織にするための対外事業であるという意識が欠けていたことを猛省いたします。

4度目となる行政・マスメディア・JC交流会を担当させていただきました。行政やマスメディアの方と交流を深めることができました。後日訪問した際には、例年お呼びしている行政の部課の方には認知されてきていると実感しました。しかし、例年通りのシナリオで開催しただけでは顔見知りになる程度であり、この機会を最大限に活かすことができませんでした。この会を通して、お互いのことをもっとよく知る必要があります。まずは、青年会議所側がこのようなことができる、このようなことがやりたいというアピールをするために、スライドを使ってプレゼンテーションする企画を考えると申し送りさせていただきます。また、その場限りの関係とならない様に、JCニュースを届ける時には委員長に声をかけて同行するよう促す必要があると申し送りさせていただきます。

広報において、一年間L O Mの情報発信について担当させていただきました。ホームページやFacebookは更新が遅く反省しかありません。素早く更新しないといけないという意識が欠けていたと考えます。遅くとも3日以内に更新するなどのルール作って運用していくことで意識付することが必要であると申し送りさせていただきます。Instagramについては、フォロワー数が増えたことで多くの人に対して情報の発信ができるようになりました。より海部津島青年会議所について知ってもらうためには、例会の写真だけではなく日常の活動している姿やメンバーの紹介を発信することで関心を持っていただけると考えます。

JCニュースについて、1月、9月、12月と年間3回発行させていただきました。JCニュースの残部の拡大活動以外での活用方法としましては、1月号に関しては5月の対外事業であるわんぱく相撲の際に受付で配布ができると考えます。9月号に関しては、10月や11月に対外の例会があった場合配布ができると考えます。より多くの市民の方に見ていただけるようにする必要があると申し送りさせていただきます。

5. 委員長所見

理事長所信にある「しなやかで強い組織」の「しなやかな組織」を作るには、メンバーが広い知見を得て

柔軟な思考をできるようになることが必要であり、そのために対外事業へ参加することが重要でした。しかし、コロナウイルスによる社会情勢の変化から対外事業は延期や中止、webでの開催となりました。メンバーを引き連れての対外事業というのは京都会議、名古屋会議のみであり、そのような機会が減少してしまったことは残念に思います。例年であればその時その会場で1度しか聞くことができない講演も、今年はweb配信されているために何回でも視聴することができ、1度聞いただけでは理解できなかった点も2度3度聞くことができる点では知見を広めるという事に関しては良い面もあったと考えます。「強い組織」となるには、メンバー間の強固な絆が必要で、多くの時間をともに過ごし様々な話をする中で少しずつ醸成されていくものと考えます。しかし、対外事業の中止を受けて同じものを見て、同じものを食べるというような思い出の共有が少なくなりました。また、LOMの例会や事業も中止になるものがあり、本来であればより多くの経験をメンバーと一緒にできていただろうと考えれば絆を育む機会が減少してしまったことが残念でなりません。その減少してしまった機会を補完するには、Zoom上で公開委員会を開催し対外事業の配信されたものについて感想を発表し合う場を作れば、同じものを見聞きして同じ時間を過ごしたことにつながり絆の醸成にも一役買うのではないかと考えます。当委員会は渉外の委員会ということで懇親会にこだわりを持って、今までに使用したことのない店を使いたいという考えと、店探しを通して委員会メンバーにも楽しんでいただきたいという2つの考えから、様々な場所での委員会を開催していましたが、それもコロナウイルスのため不可能となりました。その間はZoomにて委員会を開催していましたが、この時点では画面共有の機能などを使いこなすことができなかつたため直接会って話した時ほど内容について深く議論できませんでした。Zoomに限らず新たな環境に適応できるよう積極的に学んでいく姿勢が必要と感じました。

本年度はコロナウイルスの影響により、直接会うことがはばかられ不都合な点もありました。しかし、だからこそ例年であれば考えることもなかつたZoomによる例会やオンライン懇親会、Zoomでのクリスマス家族会を開催するという経験を得ることができました。Zoom上での開催ということでやれることも限られ、また、企画がなかなか決まらず苦しみましたが、新たな取り組みに挑戦することができ勉強することができました。

また、青年会議所活動を行っていく上で、多くのLOMメンバーの方からご協力をいただき、たくさんの方に支えられていることで青年会議所活動ができていたのだと再認識いたしました。委員会メンバーの存在が心の励みになるということも実感できました。理事会など、深く考えることが足らず厳しいお言葉をいただくこともありましたが、そのような言葉を言わせてしまっている自分自身に歯がゆく感じました。この気持ちを次年度への糧として持ち続け精進させていただきます。

最後になりますが、担当副理事長には、非常に多くの時間を割いていただき感謝いたします。また、委員会メンバーには、例会直前には連日のように遅い時間まで付き合ってくださいなど最後まで支えていただき大変感謝しております。ご協力いただいたすべてのLOMメンバーに感謝申し上げ、委員長所見とさせていただきます。

6. 収 支 決 算

収入の部				支出の部			
予 算		決 算		予 算		決 算	
事業費	212,750	事業費	212,240	(14)	150,000	(14)	149,490
				(15)	2,750	(15)	2,750
				(16)	60,000	(16)	60,000
合 計	212,750	合 計	212,240	合 計	212,750	合 計	212,240